

## GAP Japan 2018

# GAPをめぐる最近の状況と JGAP/ASIAGAP認証制度の概要

2018年10月

一般財団法人日本GAP協会

---

## 1. GAPをめぐる最近の状況

---

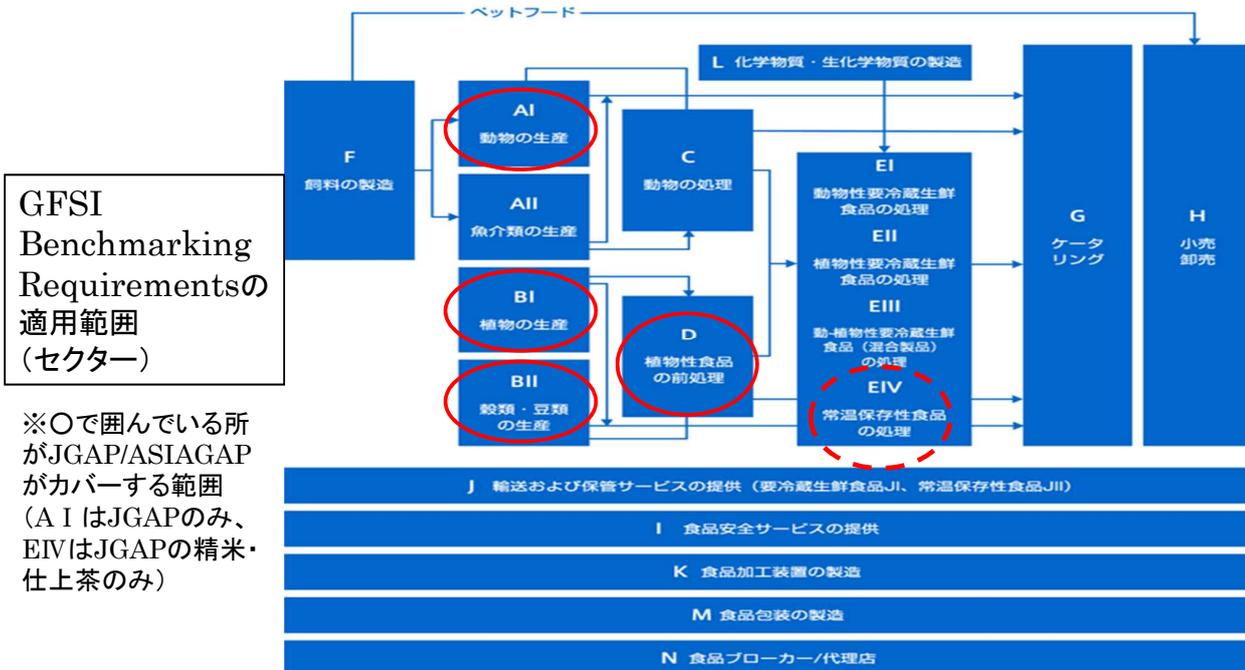


農業や商取引等の事情を踏まえたGAPが世界各国・地域にあり、これはその一例。バイヤーが求めるGAPの認証を取ることが販路の拡大につながる。

グローバル食品企業等から成る「GFSI」について JGAP ASIAGAP

◆ Global Food Safety Initiative (GFSI)

GFSIは自らはスキームや制度は運営しないが、中心的な活動の一つとして、食品安全にかかわる認証制度(スキーム)について、その同等性を判定・承認する仕組み(ベンチマーク)を提供。GFSI から承認された認証制度は「GFSI 承認スキーム」と呼ばれ、信頼に足る食品安全の認証制度として認識される。



**設立の背景**

- ◆ 食品事故の多発
- ◆ 原料の調達・加工・生産のグローバル化
- ◆ 監査コストの増大
- ◆ 認証の仕組みの乱立

↓

食品安全のグローバル規格の必要性を共有

↓

**2000年5月 GFSI発足**  
世界的に展開する主要食品企業により、フードサプライチェーン全体の安全性の向上に協働的に取り組む非営利財団として発足。

**ビジョン、ミッション、目的**

**ビジョン** 全ての消費者に安全な食品を

**ミッション** 世界中の消費者の信頼を得るため、食品安全での継続的改善を推し進める

**目的**

- ・食品安全リスクの低減
- ・コストの最適化
- ・能力開発・力量向上
- ・知識の交流ネットワークング

**ボードメンバー(20名)**

**Chair**

- ・カーギル Mike Robach氏

**Vice-Chairs**

- ・アホールド Anita Scholete op Reimer氏
- ・ウェグマンズ Gillian Kelleher氏

**Member**

- コカコーラ ● ネスレ ● カルフル
- モンデリーズ ● マクナルド
- ウォルマート ● タイソン
- 中糧集团有限公司
- テスコ ● イオン ● ダン
- ドール ● アマゾン ● オーシャン
- イトロ ● コストコ
- 新希望六和股份有限公司

**食品安全認証スキームの承認**

GFSI

承認基準  
の適合性を審査

➔

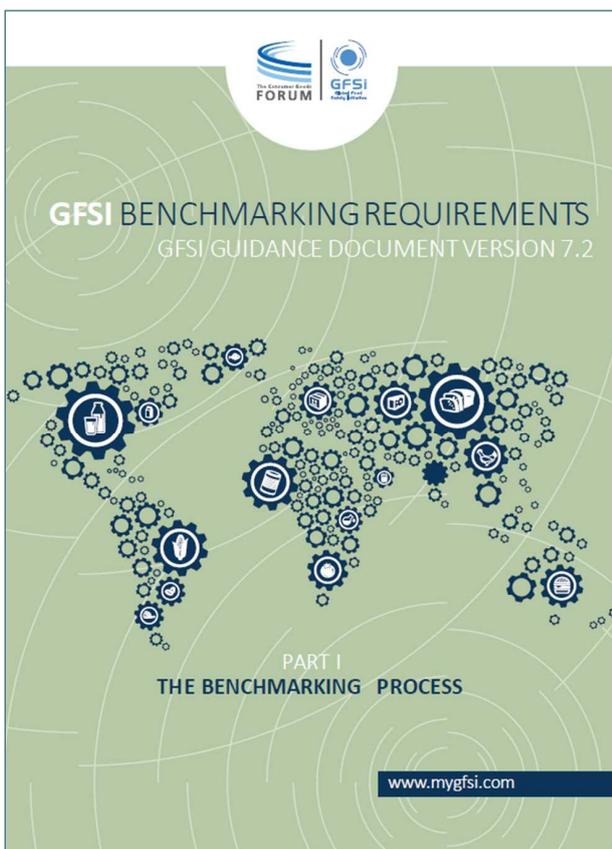
承認

承認基準の適合性を審査

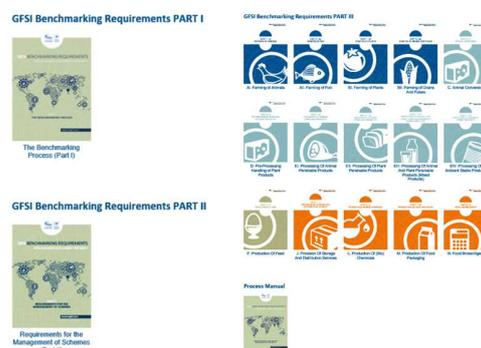
- 1. 組織への要求事項**  
(1) 食品安全マネジメント  
(2) 適正製造規範(GMP)  
(3) HACCP
- 2. 認証の仕組みへの要求事項**  
(認証の信頼性を高める仕組み)

食品安全マネジメントシステム間で等価性を図り、収束させることにより、食品安全リスクを軽減するとともに、コストを最適化する。

<b>1. と2. の両方を承認</b>	GRMS (デンマーク)	Global Aquaculture Alliance (米)
※ 括弧内は本部のある場所	FSSC22000 (蘭)	BRC (英)
SQF (米)	CANADAGAP (加)	<b>1. のみ承認</b>
IFS (独)	GLOBALGAP. (独)	China HACCP (中)
※ 赤枠は青果物の認証スキームが承認されているもの		(政府規格技術的同等性承認)



- ✓ 2017年2月末に公表。(同年4月にはVer.7.1、2018年3月にはVer.7.2へ)
- ✓ GFSI Benchmarking Requirementsと名称が変更された
- ✓ GFSIの承認を受けるには、ここに記載された内容に適合する必要
- ✓ ベンチマーキングプロセス、スキーム管理への要求事項、セクター毎の要求事項などから成る
- ✓ BRV7のセクター毎の要求事項では、例えばBI(植物の生産)においては、HACCPが5項目、FSM(食品安全マネジメント)が38項目、GAPが34項目ある。



### ◆ GFSI承認申請の概要

- ・申請を行った認証スキーム: ASIAGAP Ver.2(セクター: B、D)  
基準文書: ASIAGAP Ver.2 青果物、穀物、茶  
ASIAGAP Ver.2 総合規則2017
- ・申請を行ったカテゴリ: B I (植物の生産)、B II (穀類・豆類の生産)、D(植物性食品の前処理)

### ◆ カテゴリB I、B II、Dに係る運用実績(2017年11月時点)

- ・契約認証機関より認証を取得した組織(申請条件: 10組織以上)  
B I 及びDカテゴリ: 94組織(1,049農場)  
B II 及びDカテゴリ: 12組織(37農場)

### ◆ 現在の状況

・GFSIの定めるベンチマーキングプロセス(セルフチェックシートの作成と評価、オフィス訪問、パブリックコンサルテーション等)に従って、申請に対する審査が進行しており、現在はパブリックコンサルテーション(10/5まで)が実施されている。

※New Stakeholder Consultations Open : JFSM&ASIAGAP

(<https://www.mygfsi.com/news-resources/latest-news/1443-new-stakeholder-consultations-open-jfsm-asiagap.html>)

## 2020年東京オリンピックの食材調達基準

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における食材調達基準は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が決定。

### 持続可能性に配慮した運営計画 フレームワーク(2016年1月)

- 気候変動、資源管理、水・緑・生物多様性、人権・労働・公正な事業慣行等への配慮、参加・協働
- ISO20121(Event Sustainability Management System)の導入

### 持続可能性に配慮した調達コード 基本原則(2016年1月)

- 組織委員会が調達する全ての物品・サービス及びライセンス製品が対象

2020年東京大会の食材調達基準の策定については、昨年8月より組織委員会の「持続可能な調達ワーキンググループ」において議論が進められ、2017年3月に決定された。

この調達基準の決定を受け、「東京2020大会 飲食提供に係る基本戦略」は、2018年3月に公表された。

「持続可能性に配慮した調達コード」の概要

- 組織委員会は、持続可能性に関する取組の一つとして、「持続可能性に配慮した調達コード」を策定・運用することとしており、2016年1月に「基本原則」を公表。
- 調達コードにおいては、持続可能性の観点から全ての物品・サービス等に共通して適用する基準や運用方法を定めるとともに、必要に応じて物品別の個別基準を設定。

主な項目	内容
適用範囲	組織委員会が調達する全ての物品・サービス及びライセンス商品
調達における持続可能性の原則	組織委員会は、大会に必要な物品・サービス等の調達に当たり、以下の4点を重視する。 ①どのように供給されているのか ③サプライチェーンへの働きかけ ②どこから採り、何を使って作られているのか ④資源の有効活用
共通事項 持続可能性に関する基準	組織委員会が調達する物品・サービス等に関して、以下の事項をサプライヤー、ライセンシー、それらのサプライチェーンに求める。 <全般> 法令遵守 <労働> 児童労働の禁止 等 <環境> 省エネ、3Rの推進 等 <経済> 公正な取引慣行、地域経済の活性化 等 <人権> 差別・ハラスメントの禁止 等
担保方法	調達コードの実効性を確保するための、コミットメント、サプライチェーンへの働きかけ、取組状況の説明、モニタリング、改善措置等について規定
通報受付窓口	調達コードの不遵守に関する通報を受け付け、対応する仕組み
物品別の個別基準	重要な物品・サービス等やその原材料等については個別に調達基準や確認の実施方法等を設定。 <対象> 木材(策定済)、農産物、畜産物、水産物(今回策定)、紙(今後検討予定)、パーム油(今後検討予定)

人権、労働

物品別の個別基準《農産物》(組織委員会資料より)

《農産物》 持続可能性に配慮した農産物の調達基準(概要)

**<要件>**

- ① 食材の安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② 周辺環境や生態系と調和のとれた農業生産活動を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ 作業者の労働安全を確保するため、農産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～③を満たすことを示す方法)  
 ア JGAP Advance、**(※現ASIAGAP)** GLOBALG.A.P.、組織委員会が認める認証スキーム  
 イ 「農業生産工程」(JGAP)の**共通基準**に準拠した生産され、都による第三

ASIAGAP/JGAPは、ここに該当。  
 ※JGAPは、組織委員会が認める認証スキームとして、正式に確認済み(2018年3月27日付け)。

**<要件を満たした上で推奨される事項>**

- ・有機農業により生産された農産物
- ・障がい者が主体的に携わって生産された農産物
- ・世界農業遺産や日本関係や各国政府により認定された地域で生産された農産物

(海外産で、上記要件の①～③の確認が困難な場合)  
 組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

**<国産を優先的に選択>**  
 (国内農業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品) → 加工 → (加工食品)  
 主要な原材料である農産物が本基準を満たすものを、可能な限り優先的に調達

**サプライヤー(ケータリング事業者等)**

《畜産物》 持続可能性に配慮した畜産物の調達基準(概要)

**<要件>**

- ① 食材の安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ② 環境保全に配慮した畜産物生産活動を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ③ 作業者の労働安全を確保するため、畜産物の生産に当たり、日本の関係法令等に照らして適切な措置が講じられていること。
- ④ 快適性に配慮した家畜の飼養管理のため、畜産物の生産に当たり、アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針に照らして適切な措置が講じられていること。

(要件①～④を満たすことを示す方法)  
 ア JGAP、GLOBALG.A.P.、組織委員会が認める認証スキーム  
 イ 「GAP取得チャレンジシステム」に則って生産され、第三者による確認

**<要件を満たした上で推奨される事項>**

- ・有機畜産により生産された畜産物
- ・エコフィードを用いて生産された畜産物
- ・農場HACCPの下で生産された畜産物
- ・放牧畜産実践農場で生産された畜産物

(海外産で、上記要件の①～④の確認が困難な場合)  
 組織委員会が認める持続可能性に資する取組に基づき生産され、トレーサビリティが確保されているものを優先

**<国産を優先的に選択>**  
 (国内畜産業の振興とそれを通じた農村の多面的な機能の発揮等への貢献を考慮)

(生鮮食品) → 加工 (加工食品)

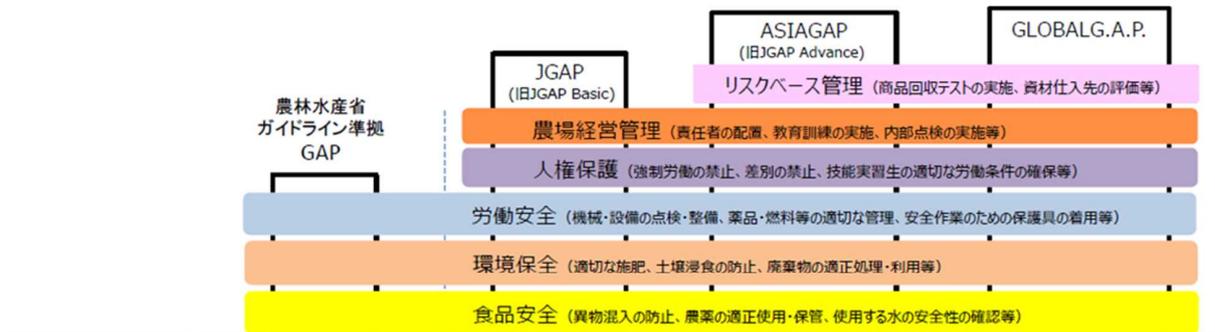
主要な原材料である畜産物が本基準を満たすものを、可能な限り優先的に調達

**サプライヤー(ケータリング事業者等)**

出典：東京2020組織委員会作成資料

日本で普及するGAPについて

<各GAPの構成と特徴－農産関係－(農水省資料より)>



	「GAPをする」	「GAP認証をとる」		
	農林水産省ガイドライン準拠GAP	JGAP (旧JGAP Basic)	ASIAGAP (旧JGAP Advance)	GLOBALG.A.P.
運営主体	都道府県等	一般財団法人日本GAP協会		FoodPLUS GmbH(ドイツ)
審査機関	—	4社		3社(日本人審査員がいる会社)
審査費用の目安 (個別認証の場合)	—	10万円程度+旅費		25～55万円程度+旅費
オリバラ調達基準	△(都道府県の確認がある場合)	○		○
GFSI※承認	—	—	青果物、穀物、茶について H29.11月に承認申請	青果物について承認
認証取得経営体数 (国内農畜産業)	—	2,785 (H30.3月末)	1,415 (H30.3月末)	632 (H30.6月末)

※GFSI(Global Food Safety Initiative)とは、グローバルに展開する小売業者・食品製造業者等が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化に向け発足した組織(世界70カ国、約400社が加入するCGF(The Consumer Goods Forum)の下部組織)。

## 2. JGAP/ASIAGAP認証制度の概要

---

13

### 日本GAP協会の歩み

JGAP ASIAGAP

- 2002-2007年 流通・JA・行政等、多様なGAPが日本国内で作られていく
- 2006年11月 NPO法人日本GAP協会 設立
  - 設立の目的①：日本の業界標準のGAPを構築すること
  - 設立の目的②：世界に通用する日本の本格的なGAPを創り、普及すること
- 2007年11月 JGAPの第三者認証制度がスタート
- 2008年10月 日本GAP協会 基本方針および行動目標 策定
- 2010年6月 JGAP青果物2010を発表。農水省ガイドラインに対応
- 2010年7月 JGAP認証の消費者向け表示を開始
- 2013年7月 JGAP英語版の発表/JGAP取組宣言制度の開始
- 2015年1月 一般財団法人日本GAP協会、NPO法人GAP総合研究所の2法人体制に発展
- 2016年5月 Basic及びAdvanceの2本立てとなる「JGAP2016」を発表
- 2017年3月 初の畜産のJGAPとなる「JGAP 家畜・畜産物」を発表
- 2017年7月 JGAP Advanceの改定版となる「ASIAGAP Ver.2」を発表
- 2018年5月 ASIAGAP Ver.2.1を発表

**<ASIAGAP(旧JGAP Advance)改定のポイント>**

- GFSI承認の国際規格として展開することを目指すスキーム。  
GFSI Benchmarking Requirements Version7（及び7.1）に対応するため、JGAP Advanceを改定。
- アジア共通のGAPのプラットフォームとして位置付け、  
**「ASIAGAP」という名称に改名。**

◆ JGAP Advance 2016からの主な改定内容

- ✓ 食品安全に関するリスク管理を、GFSIが重視するHACCPベースのシステムとして整理
- ✓ 食品防御の計画の文書化、食品偽装への対応
- ✓ アレルゲン表示や、アレルゲン物質の交差汚染への対応
- ✓ 水を保管する場合の衛生管理
- ✓ 総合規則において、無通知で行う審査の導入 ……など

 2017年8月1日より運用開始

**JGAP / ASIAGAPの基準書の版の一覧**

ASIAGAPは、GFSIの承認基準への機動的対応の必要性等からバージョン番号により表記。このため現行のJGAP Advance 2016は、ASIAGAP Ver.1となる。日本GAP協会が管理・運営を行うGAPのスキームは次のとおり。

- ◆ **ASIAGAP Ver.2.1**
- ◆ **ASIAGAP Ver.2** (2019年7月末まで新規の審査を受付)
- ◆ **ASIAGAP Ver.1** (旧JGAP Advance 2016。2018年7月末で新規の審査受付を終了)
- ◆ **JGAP 2016**
- ◆ **JGAP 2010/2012** (2017年8月末で新規の審査受付を終了)

**<JGAP(旧JGAP Basic)改定のポイント(2017年7月)>**

- JGAP Basicは基準の改定は行っていない(総合規則の年次改定のみ)。
- JGAP Advanceの名称変更に伴い、名称を「JGAP」に変更。

- 日本GAP協会では、先行して取り組んできた青果物・穀物・茶が一定の段階に達したこと、同時に、2020年東京オリンピック・パラリンピックへの対応や輸出の促進が畜産業における重要な課題となっていること等を踏まえ、「JGAP家畜・畜産物」の開発に着手することを決定。
- 2016年10月以降、技術委員会を開催して基準書の開発を進め、パブリックコメントの実施を経て、2017年3月31日に完成・公表。
- これに基づく審査及び指導の体制を順次整備してきており、昨年の秋より、審査及び研修を開始。

## ＜JGAP家畜・畜産物の骨子＞

- 農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重に、アニマルウェルフェアへの配慮を加えた家畜・畜産物の総合的なGAP
- 乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏、肉用鶏の生体と生乳、鶏卵を対象
- 審査・認証等は、他のJGAP基準に準拠

17

# JGAP家畜・畜産物基準書のポイントと留意点

- **飼養衛生に関する管理**については、「4.1 飼養衛生管理基準の遵守」において、附属書として添付した飼養衛生管理基準の全項目について不適合がないことを、年一回以上、確認することを要求。
- **アニマルウェルフェア**については、附属書として添付した「アニマルウェルフェアの考え方に対応した飼養管理指針」のチェックリストを活用して飼養管理の改善に取り組むことを要求。当該指針は、公益社団法人畜産技術協会が、OIE(国際獣疫事務局)のアニマルウェルフェアに関する規約(コード)で各畜種の生産システムに関する規約等に準拠して、乳用牛、肉用牛、豚、採卵鶏及び肉用鶏についてそれぞれ作成しているもの。
- **農場HACCP認証基準**の認証取得農場に対しては、JGAPと農場HACCP認証基準との差分に関する文書を用意し、食品安全及び家畜衛生に関する審査が重複しないよう配慮。
- **農場HACCP認証制度との連携**については、上記の通り差分を用いた審査を可能とするとともに、審査員の登録要件にも農場HACCPの研修を含めるなどの対応を実施。
- 青果物等にある**団体認証**についても、同様に準備。

18

**ASIAGAPの基準書 (農産物)**

日本GAP協会が発行している以下の基準書をダウンロードできます。

ASIAGAP (2018年5月1日発表、総合規則は2018年5月1日より運用開始、管理点と適合基準は2018年8月1日より審査受付開始)

基準書	
農場用 管理点と適合基準	
青果物	Ver.2.1
穀物	Ver.2.1
茶	Ver.2.1
団体事務局用 管理点と適合基準Ver.2.1	
総合規則2017改定第1版	

**JGAP/ASIAGAPの基準書は、全てHPに掲載。**

英語版のHPも運用開始。基準書の英訳版はここに掲載。

- ◆ 審査員、指導員、農場に対する能力開発のプログラムとして多様な研修メニューを提供
- **JGAP指導員基礎研修**: JGAPの基礎を学ぶ
- **団体認証研修**: 事務局の運営や内部監査の考え方など団体認証を学ぶ
- **JGAP指導員現地研修**: 農場への指導方法を農場で学ぶ
- **ASIAGAP指導員基礎研修**: ASIAGAPの基礎を学ぶ
- **JGAP審査員研修**: JGAP審査員となるための基礎を学ぶ
- **インターネット研修**: 知識の向上と指導員資格更新

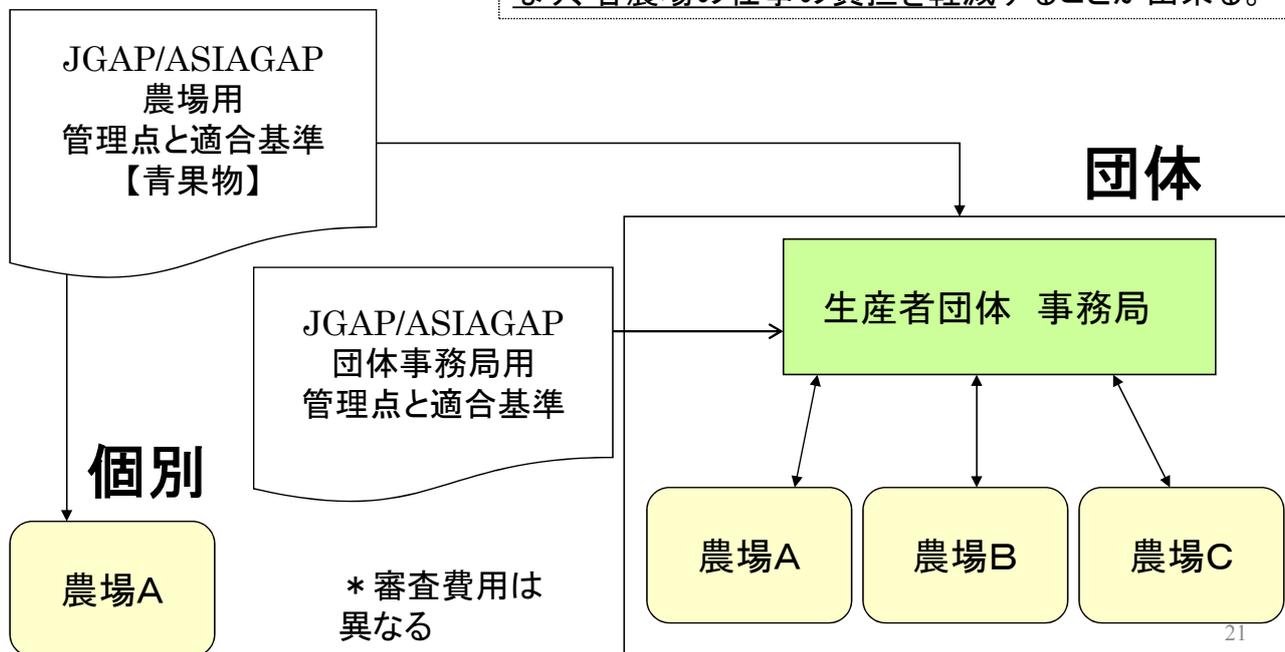
※ 2017年の受講者総数は、3,500人以上。  
 ※ 育成された指導員は、全国で7,602名(2018年3月末)。  
 ※ 予定は随時更新されるので、日本GAP協会ウェブサイトをご覧ください。  
 ([http://jgap.jp/navi\\_03/index.html](http://jgap.jp/navi_03/index.html))

<①個別認証>

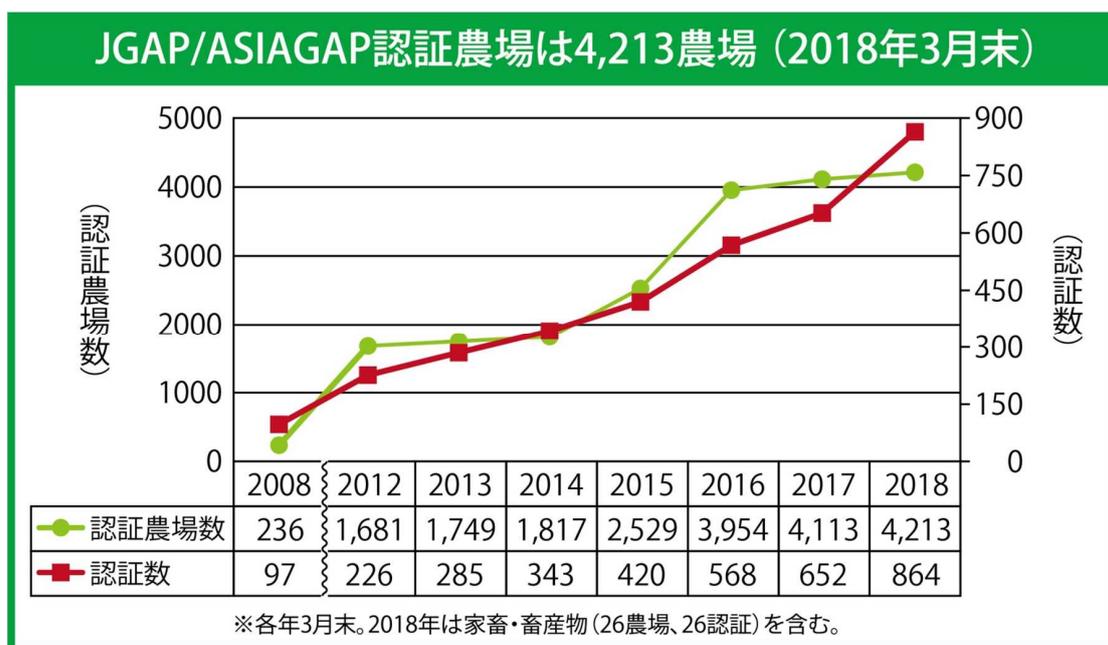
1経営体として取り組み、農場管理を改善する。

<②団体認証>

農場管理を、団体事務局と各農場が分担することになり、各農場の仕事の負担を軽減することが出来る。

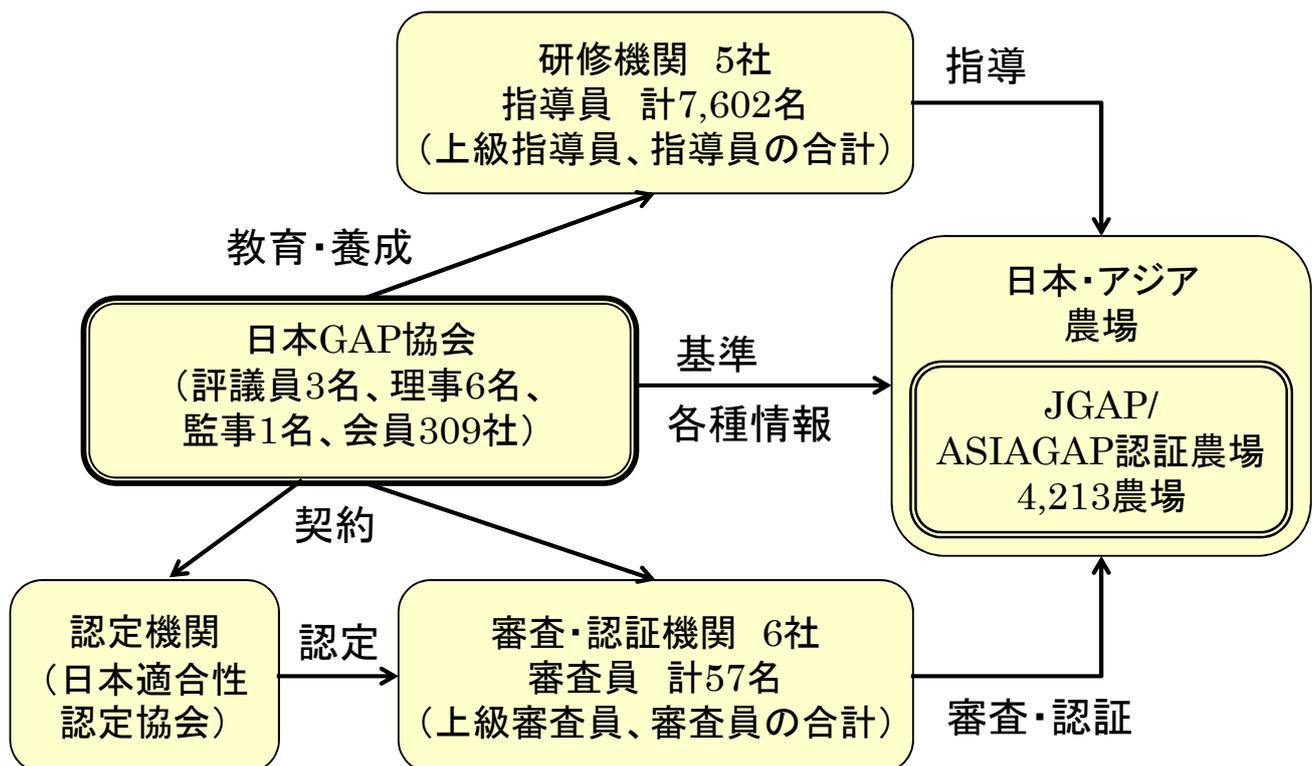


増加を続けるJGAP/ASIAGAPの認証農場



※各年3月末現在。認証農場数は、個別認証の農場数と団体認証の所属農場数の合計である。

- ✓ 日本国内において第三者認証の仕組みを持つGAPとして最多。
- ✓ うちASIAGAPは、認証農場数1,416、認証数189(2018年3月末)。



注1: 2018年3月末時点。青果物、穀物、茶、家畜・畜産物の合計  
 注2: 家畜・畜産物は日本GAP協会による認定も含む

JGAP/ASIAGAP活用の一例①(GAP普及大賞受賞事例より) JGAP ASIAGAP

◆ JA鹿児島県経済連

JA鹿児島県経済連、JAの営農指導員、県の普及指導員の連携により、組織的なGAP普及・指導体制を構築。モデル手順書・モデル帳票を作成し、それらを各農場や各茶工場に合わせてカスタマイズしていくことで、効率的・効果的なGAP普及を実現。その結果、鹿児島県内の茶の栽培面積(8,520ha)のうち24%がGAP認証に。今後は穀物や青果物でも展開し、輸出などにも対応していくことを検討。

◆ (株)ローソンとローソンファーム社長会

ローソンは、全国のローソンファームにJGAP導入を進めてきた(2016年末には22社が取得)だけでなく、各経営者がGAP導入事例の発表や意見交換を行い、お互いの農場管理を高め切磋琢磨する「ローソンファーム社長会」という他に類をみない活動を実施。認証を取得したローソンファームが各々の地域でローソンの他の契約生産者にGAPを指導、普及することで、地域におけるGAPの面的広がりも期待。

### ◆ JAおおいたGAP研究会

いちご、みつば、柑橘の3つの品目部会を1団体に統合した形に**JGAP団体認証を発展させ、より効率的な団体運営を実現**。また、農業者の負担を軽減するためJAと農業者の役割分担を明確に行い、団体認証の事務局であるJA職員のサポートによって**高齢の農業者でもGAPに取り組める工夫**がされた模範的な事例。

### ◆ 日本コカ・コーラ(株)

緑茶飲料の原料茶葉の産地について、コカ・コーラグループ共通の取引産地基準であるSAGP(持続可能な農業の基本原則)を容易に導入するため、**JGAP 認証を取得している茶産地がSAGP とJGAP の差異部分のみ追加で取り組むことで、SAGP 全体を導入することを可能にした**。約6,000haもの栽培面積への導入を完了しており、今後は他の品目にも導入を予定。

※SAGP:Sustainable Agriculture Guiding Principle

## 他にも多くの好事例

- ◆ 韓国の営農組合法人ノルメインサム(海外市場を見据えた取組)
- ◆ JA北魚沼GAP部会(稲作におけるJAと行政が連携したGAP普及)
- ◆ 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会(国内随一のじゅんさい産地におけるGAPにより高品質化を目指す取り組み)
- ◆ まるせい果樹園(GAPを活用した東日本大震災に伴う風評被害への対策)
- ◆ 宮崎大学農学部(GAP普及に向けた教育プログラムの開発)
- ◆ 農業生産法人かさい農産(GAP実践の深化と新規就農支援)
- ◆ JA東予園芸とゼスプリゴールド部会(産地形成におけるGAP利用のさきがけ)
- ◆ 北海道・上川農業改良普及センターと担当普及指導員 伊與田竜(普及組織によるGAP普及)
- ◆ 株式会社セブンファーム(流通企業(イトーヨーカ堂)との協業)
- ◆ 株式会社日の丸産業社と同社のJGAP指導員(農業資材関係者によるGAP普及)
- ◆ ハラダ製茶農園屋久島農場とハラダ製茶グループ(茶のJGAP取得第1号であるとともに普及活動に尽力)

※これまでのGAP普及大賞受賞事例

日本農業の応援団  
JGAP 日本GAP協会 Japan Good Agricultural Practice

JGAPを知りたい JGAPを導入したい 指導員・審査員になりたい

Home >> 農場検索 >> JGAP認証農場検索

JGAP認証農場検索

①登録番号から検索

②条件から検索(1つの項目からでも検索できます)

※何も入力せず検索ボタンをクリックすると、全ての認証農場の一覧が表示されます。

農場名  
登録番号(9ケタの数字)  
都道府県  
JGAP/ASIAGAPの版  
品目名(野菜)  
品目名(果物)  
品目名(穀物、茶)

検索 条件クリア

農場選びから  
農協)等の生産者団体が活用す  
料の管理など、食の安全や環  
かられています。  
開始します。基準書や総合規  
nceの改定版となりますので、下  
下さい。

優秀員受賞

JGAP取組宣言  
第一歩を踏み出しやすく!

農場検索  
認証農場 / 取組開始農場

JGAP指導員検索  
指導可能エリア検索

トップページの右側にある、ここをクリック。

都道府県毎や、その下のオプションでは基準書の版や品目別にも検索でき、認証農場名等を一覧することが可能。

指導員検索も留意。認証農場検索と同様に検索可能。また、指導ができる会員リストも掲載。

(参考)「JGAP導入の効果」農研機構 調査結果(2012年)

- ✓ **売上や販路の拡大**など販売が改善されたとする農場が3割超。
- ✓ 45%の農場で**品質が向上**、30%の農場で単収が向上。
- ✓ **資材の不良在庫が削減**されたとする農場が54%、**生産コストが削減**されたとする農場が37%。
- ✓ 計画の立てやすさが改善されたとする農場は47%、**欠品や在庫が減少**したとする農場は40%。作業遅延が改善された農場は30%近く。
- ✓ **従業員の責任感や自主性が向上**したとする農場は約7割、従業員間の意思疎通が改善されたとする農場は56%。

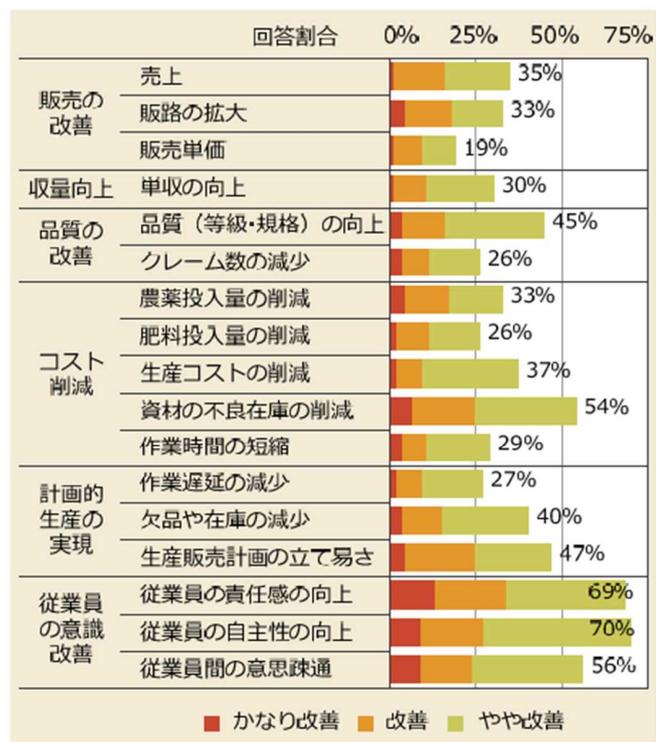


図1 GAP導入による経営改善効果

資料: GAP導入による経営改善効果に関するアンケート(2012年実施、JGAP認証農場(個別認証)164農場を対象に配布、回答数89、回収率54.2%)より。

JGAP/ASIAGAP認証数および認証農場数の推移

		認証数	認証農場数
青果物	2008年	92	210
	2009年	69	207
	2010年	68	332
	2011年	104	790
	2012年	137	1,026
	2013年	171	1,031
	2014年	219	1,043
	2015年	228	992
	2016年	257	951
	2017年	299	933
	2018年	423	1,018
穀物	2008年	5	26
	2009年	25	84
	2010年	40	123
	2011年	52	152
	2012年	71	189
	2013年	91	129
	2014年	99	168
	2015年	94	177
	2016年	98	163
	2017年	109	154
	2018年	158	210
茶	2008年	0	0
	2009年	4	149
	2010年	13	447
	2011年	15	434
	2012年	18	466
	2013年	23	589
	2014年	25	606
	2015年	98	1,360
	2016年	213	2,840
	2017年	244	3,026
	2018年	257	2,959
家畜・畜産物	2018年	26	26
合計	2008年	97	236
	2009年	98	440
	2010年	121	902
	2011年	171	1,376
	2012年	226	1,681
	2013年	285	1,749
	2014年	343	1,817
	2015年	420	2,529
	2016年	568	3,954
	2017年	652	4,113
	2018年	864	4,213

(注)各年3月末時点

### JGAP/ASIAGAP別 認証数および認証農場数の推移

		ASIAGAP		JGAP	
		認証数	認証農場数	認証数	認証農場数
青果物	2017年	5	5	294	928
	2018年	59	87	364	931
穀物	2017年	4	4	105	150
	2018年	24	48	134	162
茶	2017年	43	574	201	2,452
	2018年	106	1,281	151	1,678
家畜・畜産物	2017年	—	—	—	—
	2018年	—	—	26	26
合計	2017年	52	583	600	3,530
	2018年	189	1,416	675	2,797

(注)各年3月末時点

### JGAP/ASIAGAP 個別・団体別認証数および認証農場数の推移(青果物、穀物、茶)

	個別認証		団体認証		合計	
	認証数	認証農場数	認証数	認証農場数	認証数	認証農場数
2010年	98	98	23	804	121	902
2011年	141	141	30	1,235	171	1,376
2012年	186	186	40	1,495	226	1,681
2013年	245	245	40	1,504	285	1,749
2014年	296	296	47	1,521	343	1,817
2015年	355	355	65	2,174	420	2,529
2016年	444	444	124	3,510	568	3,954
2017年	514	514	138	3,599	652	4,113
2018年	674	674	164	3,513	838	4,187

#### ASIAGAP

2017年	28	28	24	555	52	583
2018年	122	122	67	1,294	189	1,416

#### JGAP

2017年	486	486	114	3,044	600	3,530
2018年	552	552	97	2,219	649	2,771

(注)各年3月末時点

都道府県別 認証数(2018年3月末時点)

(参考)ASIAGAP、JGAPの内訳

都道府県 ・国名	ASIAGAP、JGAPの合計				
	計	青果物	穀物	茶	家畜・ 畜産物
北海道	124	81	36	0	7
青森県	6	5	0	0	1
岩手県	10	1	2	0	7
宮城県	10	7	2	0	1
秋田県	11	5	5	0	1
山形県	18	2	16	0	0
福島県	39	22	17	0	0
茨城県	46	40	6	0	0
栃木県	2	2	0	0	0
群馬県	15	12	0	0	3
埼玉県	10	6	1	2	1
千葉県	40	36	1	0	3
東京都	4	4	0	0	0
神奈川県	6	5	1	0	0
新潟県	39	9	30	0	0
富山県	7	1	6	0	0
石川県	4	2	2	0	0
福井県	5	3	2	0	0
山梨県	5	5	0	0	0
長野県	14	10	4	0	0
岐阜県	4	2	1	1	0
静岡県	92	11	2	79	0
愛知県	13	6	0	7	0
三重県	29	5	4	20	0
滋賀県	6	1	0	5	0
京都府	15	4	0	11	0
大阪府	2	2	0	0	0
兵庫県	10	8	2	0	0
奈良県	21	0	0	21	0
和歌山県	2	2	0	0	0
鳥取県	2	2	0	0	0
島根県	3	1	1	1	0
岡山県	1	1	0	0	0
広島県	13	10	3	0	0
山口県	11	5	6	0	0
徳島県	2	2	0	0	0
香川県	1	1	0	0	0
愛媛県	8	6	2	0	0
高知県	1	1	0	0	0
福岡県	20	16	1	3	0
佐賀県	10	8	0	2	0
長崎県	5	5	0	0	0
熊本県	19	18	0	1	0
大分県	31	23	2	6	0
宮崎県	26	9	2	13	2
鹿児島県	96	11	1	84	0
沖縄県	2	2	0	0	0
国内計	860	420	158	256	26
大韓民国	2	2	0	0	0
台湾	1	1	0	0	0
ベトナム	1	0	0	1	0
海外計	4	3	0	1	0
<b>総計</b>	<b>864</b>	<b>423</b>	<b>158</b>	<b>257</b>	<b>26</b>

計	ASIAGAP			計	JGAP			
	青果物	穀物	茶		青果物	穀物	茶	家畜・ 畜産物
7	2	5	0	117	79	31	0	7
0	0	0	0	6	5	0	0	1
1	0	1	0	9	1	1	0	7
3	3	0	0	7	4	2	0	1
2	0	2	0	9	5	3	0	1
7	1	6	0	11	1	10	0	0
3	3	0	0	36	19	17	0	0
3	3	0	0	43	37	6	0	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
1	1	0	0	14	11	0	0	3
4	3	1	0	6	3	0	2	1
4	4	0	0	36	32	1	0	3
2	2	0	0	2	2	0	0	0
3	3	0	0	3	2	1	0	0
3	0	3	0	36	9	27	0	0
1	0	1	0	6	1	5	0	0
0	0	0	0	4	2	2	0	0
2	2	0	0	3	1	2	0	0
2	2	0	0	3	3	0	0	0
1	1	0	0	13	9	4	0	0
1	0	0	1	3	2	1	0	0
27	1	1	25	65	10	1	54	0
2	1	0	1	11	5	0	6	0
19	2	1	16	10	3	3	4	0
5	0	0	5	1	1	0	0	0
12	2	0	10	3	2	0	1	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
3	2	1	0	7	6	1	0	0
9	0	0	9	12	0	0	12	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
0	0	0	0	3	1	1	1	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
1	1	0	0	12	9	3	0	0
4	3	1	0	7	2	5	0	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	7	5	2	0	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
3	0	1	2	17	16	0	1	0
0	0	0	0	10	8	0	2	0
0	0	0	0	5	5	0	0	0
9	9	0	0	10	9	0	1	0
2	0	0	2	29	23	2	4	0
4	3	0	1	22	6	2	12	2
33	0	0	33	63	11	1	51	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
188	59	24	105	672	361	134	151	26
0	0	0	0	2	2	0	0	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
1	0	0	1	0	0	0	0	0
1	0	0	1	3	3	0	0	0
<b>189</b>	<b>59</b>	<b>24</b>	<b>106</b>	<b>675</b>	<b>364</b>	<b>134</b>	<b>151</b>	<b>26</b>

都道府県別 認証農場数(2018年3月末時点)

(参考)ASIAGAP、JGAPの内訳

都道府県・国名	ASIAGAP、JGAPの合計				
	計	青果物	穀物	茶	家畜・畜産物
北海道	148	81	60	0	7
青森県	23	22	0	0	1
岩手県	10	1	2	0	7
宮城県	10	7	2	0	1
秋田県	38	32	5	0	1
山形県	21	2	19	0	0
福島県	59	42	17	0	0
茨城県	95	89	6	0	0
栃木県	2	2	0	0	0
群馬県	27	24	0	0	3
埼玉県	95	6	1	87	1
千葉県	42	38	1	0	3
東京都	4	4	0	0	0
神奈川県	6	5	1	0	0
新潟県	64	9	55	0	0
富山県	7	1	6	0	0
石川県	4	2	2	0	0
福井県	5	3	2	0	0
山梨県	5	5	0	0	0
長野県	20	16	4	0	0
岐阜県	49	2	1	46	0
静岡県	1,813	26	2	1,785	0
愛知県	13	6	0	7	0
三重県	81	5	4	72	0
滋賀県	22	1	0	21	0
京都府	113	4	0	109	0
大阪府	2	2	0	0	0
兵庫県	15	13	2	0	0
奈良県	86	0	0	86	0
和歌山県	2	2	0	0	0
鳥取県	2	2	0	0	0
島根県	3	1	1	1	0
岡山県	1	1	0	0	0
広島県	13	10	3	0	0
山口県	11	5	6	0	0
徳島県	2	2	0	0	0
香川県	1	1	0	0	0
愛媛県	234	232	2	0	0
高知県	1	1	0	0	0
福岡県	84	53	1	30	0
佐賀県	110	63	0	47	0
長崎県	5	5	0	0	0
熊本県	54	47	0	7	0
大分県	108	100	2	6	0
宮崎県	44	9	2	31	2
鹿児島県	644	20	1	623	0
沖縄県	2	2	0	0	0
国内計	4,200	1,006	210	2,958	26
大韓民国	11	11	0	0	0
台湾	1	1	0	0	0
ベトナム	1	0	0	1	0
海外計	13	12	0	1	0
<b>総計</b>	<b>4,213</b>	<b>1,018</b>	<b>210</b>	<b>2,959</b>	<b>26</b>

計	ASIAGAP			JGAP				
	青果物	穀物	茶	計	青果物	穀物	茶	家畜・畜産物
31	2	29	0	117	79	31	0	7
0	0	0	0	23	22	0	0	1
1	0	1	0	9	1	1	0	7
3	3	0	0	7	4	2	0	1
2	0	2	0	36	32	3	0	1
7	1	6	0	14	1	13	0	0
3	3	0	0	56	39	17	0	0
3	3	0	0	92	86	6	0	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
1	1	0	0	26	23	0	0	3
4	3	1	0	91	3	0	87	1
6	6	0	0	36	32	1	0	3
2	2	0	0	2	2	0	0	0
3	3	0	0	3	2	1	0	0
3	0	3	0	61	9	52	0	0
1	0	1	0	6	1	5	0	0
0	0	0	0	4	2	2	0	0
2	2	0	0	3	1	2	0	0
2	2	0	0	3	3	0	0	0
1	1	0	0	19	15	4	0	0
46	0	0	46	3	2	1	0	0
749	1	1	747	1,064	25	1	1,038	0
2	1	0	1	11	5	0	6	0
34	2	1	31	47	3	3	41	0
21	0	0	21	1	1	0	0	0
107	2	0	105	6	2	0	4	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
8	7	1	0	7	6	1	0	0
52	0	0	52	34	0	0	34	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
0	0	0	0	2	2	0	0	0
0	0	0	0	3	1	1	1	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
1	1	0	0	12	9	3	0	0
4	3	1	0	7	2	5	0	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
1	1	0	0	0	0	0	0	0
1	1	0	0	233	231	2	0	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
7	0	1	6	77	53	0	24	0
0	0	0	0	110	63	0	47	0
0	0	0	0	5	5	0	0	0
30	30	0	0	24	17	0	7	0
2	0	0	2	106	100	2	4	0
4	3	0	1	40	6	2	30	2
268	0	0	268	376	20	1	355	0
1	1	0	0	1	1	0	0	0
1,415	87	48	1,280	2,785	919	162	1,678	26
0	0	0	0	11	11	0	0	0
0	0	0	0	1	1	0	0	0
1	0	0	1	0	0	0	0	0
1	0	0	1	12	12	0	0	0
<b>1,416</b>	<b>87</b>	<b>48</b>	<b>1,281</b>	<b>2,797</b>	<b>931</b>	<b>162</b>	<b>1,678</b>	<b>26</b>